

ドイツ派遣レポート
～ブランデンブルグ州～

深谷綾乃

私は今回、ドイツストリートサッカーチャンピオンシップ及びブランデンブルグ州訪問という、とても貴重な経験をさせていただきました。私にとってこのドイツ派遣は初めての海外でもありました。私はいま大学で英語を専攻しています。授業でも外国のことについて調べたり発表したりしています。海外にはとても興味がありましたが、なかなか一歩踏み出せず、行けないのままでした。そんな時、部活の監督からこのプログラムのお話をいただき今回参加することができました。

ドイツに滞在した期間のうち、前半は主に観光をしました。ブランデンブルグ州の方に案内してもらい色々な名所を巡りました。どの建物も日本にはないデザインでとても素晴らしいものばかりで圧倒されました。そのなかでもサンソーシ宮殿はとても印象に残っています。宮殿中にたくさんの彫刻された像があり、さらに建物にも彫刻がされていました。とてもヨーロッパを感じることができました。庭園も緑が多く、とても綺麗でした。

また、ベルリンの壁にもいきました。ベルリンの壁の歴史は中高と勉強してきて知っていたので、実際に見ることができて感じるものが多かったです。この壁を越えようとして、何人もの人が殺害されたと思うととても悲しくなりました。ですが崩壊後もこうやってベルリンの壁の一部を残すことにはとても意味があるのだと思います。私たちがベルリンの壁に「さいたま」と残してきました。ほかにも「PEACE」などが書かれていて、平和でありたいという人々の願いは全世界共通だなと思いました。

ブランデンブルグ州の観光最終日には、州議会会議事堂にもいきました。中にも入らせてもらい、実際に会議をする部屋にも入ることができました。議長の椅子に座ることもでき、とても貴重な経験でした。この州議会会議事堂は以前一度壊されてしまったようですが、またその当時と同じように作り直し、今はとても綺麗に修復されています。また議員は女性がかかなり多く、それも日本との大きな違いだなと思いました。

国会議事堂を訪問した後は、“FILMPARK”というアミューズメント施設に行きました。ここでは映画のワンシーンにでてくる場面を実際に生で見ることができるショーがありました。それはスタントシーンで、上空30メートルから命綱無しで飛び降りたり、危険な車やバイクの運転だったり実際に爆発したり、とても危険なシーンを間近で見ることができました。会場には沢山のお客さんがいましたが、一体感がすごくありとても盛り上がりました。

プログラムの後半、私たちはストリートサッカーチャンピオンシップに参加するために、リューゲン島のプローラという町に移動しました。ここでは沢山の新しい出会いがありました。私たちが参加したこの大会は私たちのような大学生くらいの年代のほかにも、小学生部門があり、その小学生の中でも男女や低学年、高学年などとても年代が細かく分かれていて本当にたくさんのチームと、たくさんの子供たちが参加していました。いざ試合になり、私たちが普段部活でしているサッカーとは全く違い、コートは狭いし、壁はあるし、ほかの国のチームは何度か参加したことがあるのか、とても壁をつかうのが上手く、圧倒されました。試合が終わった後にはフェアプレーを確認するためのミーティ

ングがあり、自分がファウルをしたかの自己申告をする場合があります。これはこの大会の一番の大事なルールです。私たちが段々とコツをつかむことができ、2日目からは戦術も立ててプレーすることができました。結果的に日本は3位でしたが、最初の予選リーグでは1位のコソボに引き分けることができ、2位のドイツには勝つことができました。だからこそ、負けたら終わりの決勝リーグになってドイツに負けてしまったときはとても悔しかったです。何度ももう一回挑戦したいと思ってしまいました。試合は試合でとても緊張感がありましたが、ピッチの外では同じ年代同士ということもあり、楽しく交流することができました。それぞれピッチの中では敵ですが、外に出るとみんなで応援しあうことができ、いい交流ができました。また、とても嬉しいことがありました。それは、私たちの試合を見ていたドイツ人の女の子が「日本のファンになった！」と言ってくれました。その女の子は毎日私たちの試合を見に来てくれて応援してくれました。私たち一人ひとりの似顔絵も書いてくれてプレゼントしてくれました。それから、私たちは試合の合間にゴミ拾いをしていましたが、あるドイツ人の女性の方が「なんでそんな事をしているの？」問いかけてきました。私たちは普段から日本でもゴミ拾いを習慣的に行っているの、いざ、「なんで？」と聞かれて戸惑ってしまいました。ですがその女性は私たちのこのゴミ拾いの行動をととても褒めてくれて、素晴らしいといってくれました。とても嬉しかったです。

またドイツで強く感じた事は、みんながとてもフレンドリーだということです。日本では全く知らない人にいきなり声をかけて友達になるといったことはあまりありませんが、ドイツにきて、全く知らない人に話しかけられて、一緒にサッカーをしたり、海で遊んだり、私たちは何人もの人たちと友達になることができました。たくさん国際交流することができましたし、埼玉という場所もつたえることができました。試合でも、一緒に遊んだたくさんの子供たちが「ヤーパン！ヤーパン！」と応援をしてくれました。

私は初めての海外で、何もかもが新鮮で毎日刺激を受けて生活することができました。ドイツ語がまったく喋れなくて、会話をすることができなくても、サッカーで繋がり合えることができるのは本当に素晴らしいことだと思います。

この経験を通して、もっと英語を学びたい、話したいと思いましたし、いろいろな国のことを調べて、海外に行ってみたいという気持ちがより一層大きくなりました。私の人生にとって一生忘れられない素敵な経験になりました。